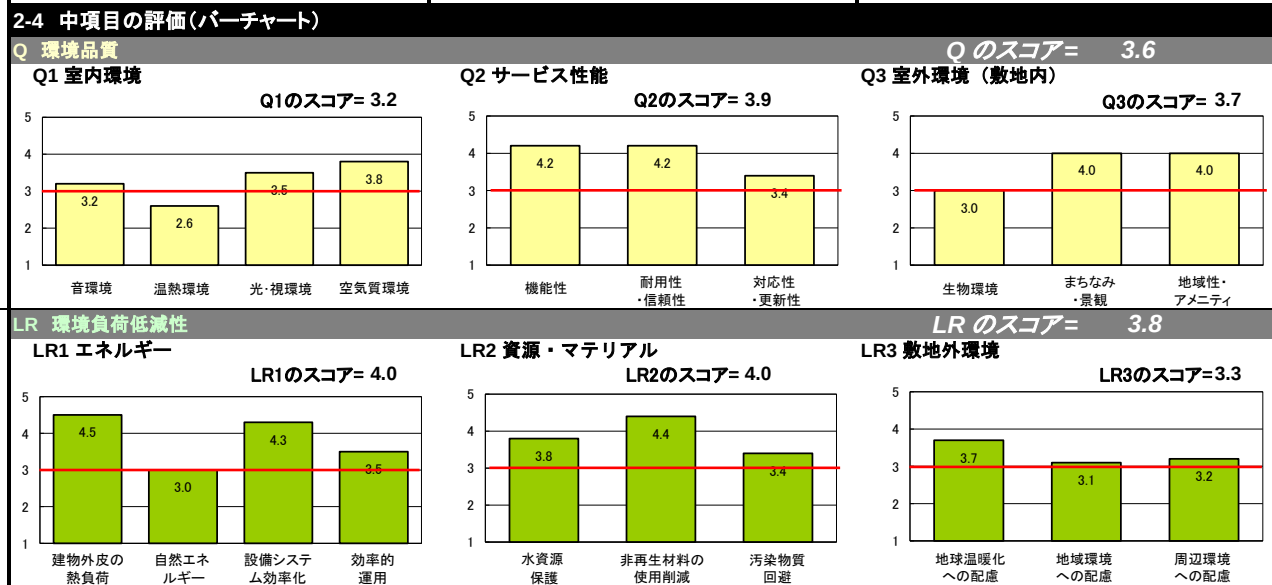
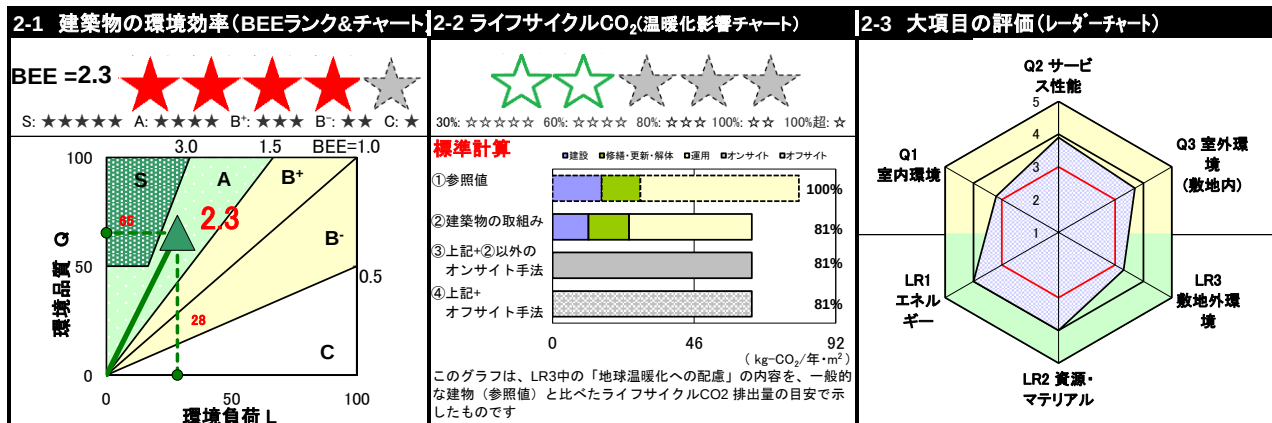


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2024年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千種区役所等複合庁舎整備及び地下第二団地建替工事	階数	地下1F、地上20F
建設地	名古屋市千種区	構造	RC造、一部S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,120 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、集会所、集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2028年12月 予定	評価の実施日	2025年4月18日
敷地面積	3,164 m ²	作成者	
建築面積	2,146 m ²	確認日	2025年4月18日
延床面積	25,880 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 名古屋市千種区の千種区役所等複合庁舎および集合住宅である。		その他
Q1 室内環境 ・遮音性能の高いサッシを採用している。 ・F☆☆☆☆となる建築建材を採用し、空気質環境の向上に配慮している。	Q2 サービス性能 ・免震構造を採用し、耐震性に配慮している。 ・耐用年数の長い内装仕上げ材を採用し、更新必要間隔に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) ・敷地内に積極的な緑化を行っている。 ・アトリウムの計画があり、建物内外を連携させる中間領域を形成している。
LR1 エネルギー ・建物のエネルギー消費量を把握し、効率的運用を行えるよう配慮している。 ・住宅性能として、高い断熱性能を確保している。	LR2 資源・マテリアル ・躯体材料および躯体材料以外の材料においてリサイクル材を採用し、非再生性資源の使用量を削減に配慮している。	LR3 敷地外環境 ・適切な量の駐輪場および駐車場を確保し、敷地周辺の交通負荷抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

千種区役所等複合庁舎整備及び池下第二団地建替工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.1	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.7	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				4.2
LR2.1	水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	4.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 4.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。